

桃園第二小学校改築推進委員会 要点記録

第 3 回

開催日時	令和5年5月18日(木) 午後6時30分～7時56分	
開催場所	桃園第二小学校	
出席者	委員	須藤直樹、飯村悟、荒山幸次郎、佐藤清一郎、三浦絵莉子 中崎安由未、矢島寛典、石井よしみ、荻野嘉彦、古賀野さやか、中村笑子、山崎義弘、計良真美、渡邊健治、藤永益次 (敬称略、名簿順)
	事務局	学校再編・地域連携係、子ども教育施設整備係
会議次第	【議事】 1 新校舎整備の基本構想・基本計画の検討について	

第3回 桃園第二小学校改築推進委員会 会議要旨

1 開会

委員長

これより第3回桃園第二小学校改築推進委員会を開会する。本日、傍聴希望者がいる。傍聴についてこれを許可してよろしいか。

—異議なし—

委員長

傍聴者は傍聴券の裏に記述されている注意事項を守り、議事の進行を妨げないようお願いする。

2 報告

(1) 改築推進委員会委員の変更について

委員長

議事に入る前に、資料1のとおり委員に変更があったため、事務局より紹介する。

事務局

(1) 委嘱状交付（渡邊課長より新委員へ委嘱状交付）

(2) 委員紹介（自己紹介）

桃園第二小学校PTA	三浦 絵莉子委員
五町会子ども会	古賀野 さやか委員
桃園第二小学校副校長	計良 真美委員

3 議事

議事(1) 新校舎整備の基本構想・基本計画の検討について

委員長

議事に入る。「新校舎整備の基本構想・基本計画の検討について」、事務局の説明を求める。
子ども教育施設課長

資料2-1のとおり「桃園第二小学校新校舎整備における基本構想・基本計画（案）」を取りまとめた。6月下旬に区の子ども文教委員会、7月上旬に教育委員会、地域説明会については区報で周知の上、7月下旬から8月上旬に実施し、9月中旬頃に保護者説明会で説明する予定である。資料2-2は、その1ページ目を抜粋したものである。

■資料2-2（「桃園第二小学校新校舎整備における基本構想・基本計画」抜粋資料）を説明

第1章 計画の前提

(1) 新校舎整備の概要

- ・ 桃園第二小学校は、「中野区立小中学校施設整備計画（改定版）」等上位計画に基づき、現在の校舎の敷地と新たに追加した隣接地に、新校舎を改築整備する予定である。
- ・ 整備期間中は、旧中野中学校（旧第九中学校）を代替校舎として利用する。

① 新校舎等の整備スケジュール（中野区立小中学校施設整備計画（改定版））

2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	2027年度 (令和9年度)	2028年度 (令和10年度)
← (旧中野中学校耐震診断・設計、改修工事) (旧中野中学校に通学) →						
基本構想	← 基本設計 →				実施設計	校舎新築工事
基本計画						● 供用開始 新校舎に通学

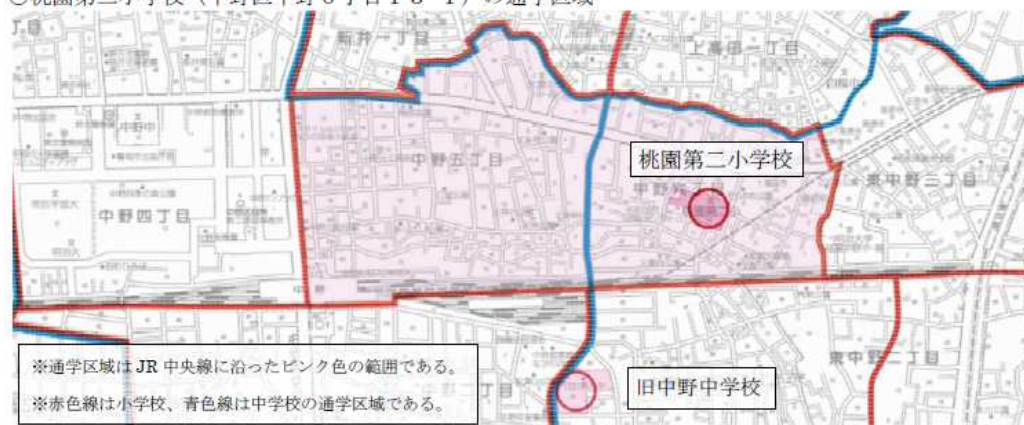
② 新校舎等の整備スケジュール（想定）

2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	2027年度 (令和9年度)	2028年度 (令和10年度)	2029年度 (令和11年度)	2030年度 (令和12年度)
← (旧中野中学校耐震診断・設計、改修工事) →								
基本構想	← 基本設計・実施設計 →				校舎新築工事			● 供用開始 新校舎に通学
基本計画								

※基本計画の策定作業において、桃園第二小学校整備にあたっては、以下の事項の課題が明らかになってきており、今後の基本設計において、検討が必要となる。

- ・ 近隣は狭い道路であり、車両の通り抜けが難しく一方からの搬出入となる。
- ・ 建築予定地が二敷地に分かれているため、片側の敷地から工事を行うことになる。
- ・ 敷地と道路、敷地と隣地の間に高低差があり擁壁がある。
- ・ 東西敷地間の児童導線については、道路上空通路設置に伴う申請手続きも必要となるうえ、複雑な電線が東西敷地間に存在し、通路設置が困難になる場合も今般明らかになった。設計作業においては、通路設置の実現可能性を検討しつつ、設置が不可能な場合は、他の方法についても検討する必要がある。
- ・ 西側敷地が埋蔵文化財包蔵地に該当しており調査が必要になる。
- ・ 敷地上の制約により、給食室を地下化する場合は、スケジュールが延伸しやすい。

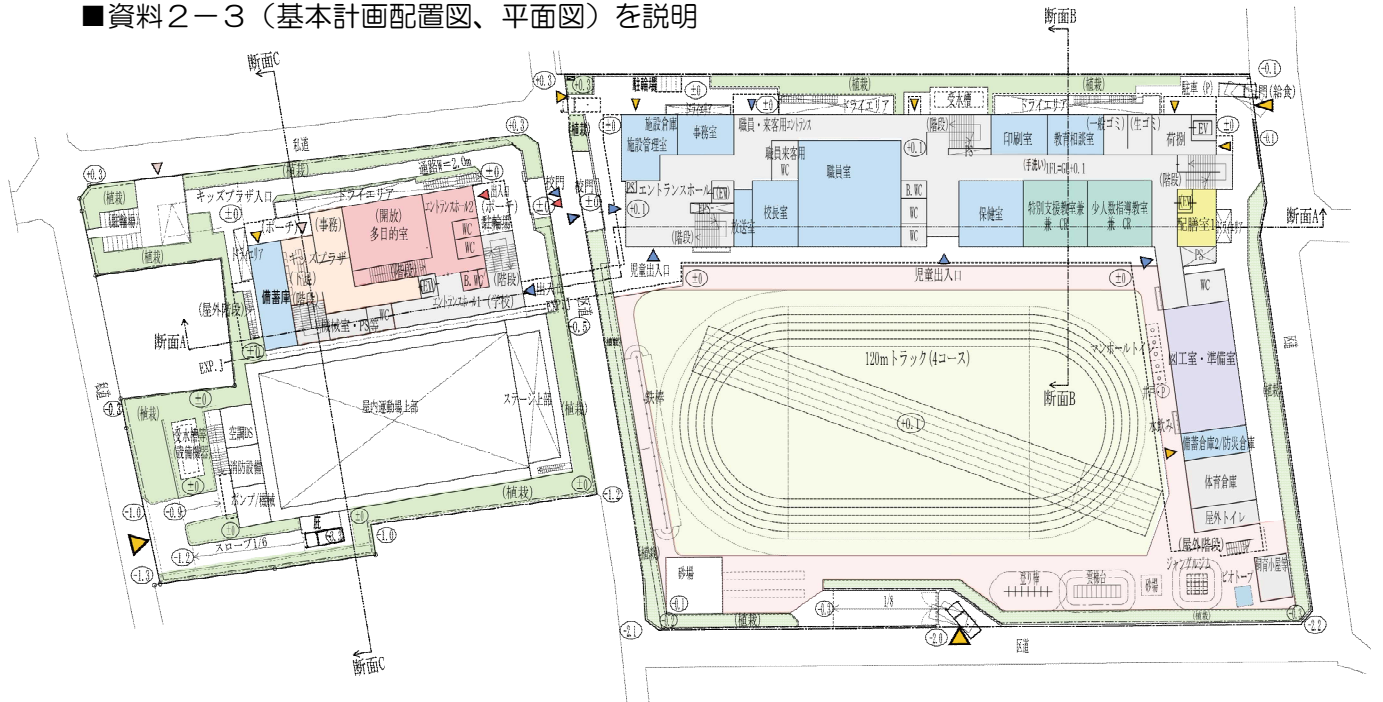
○桃園第二小学校（中野区中野6丁目13-1）の通学区域



※通学区域はJR中央線に沿ったピンク色の範囲である。
※赤色線は小学校、青色線は中学校の通学区域である。

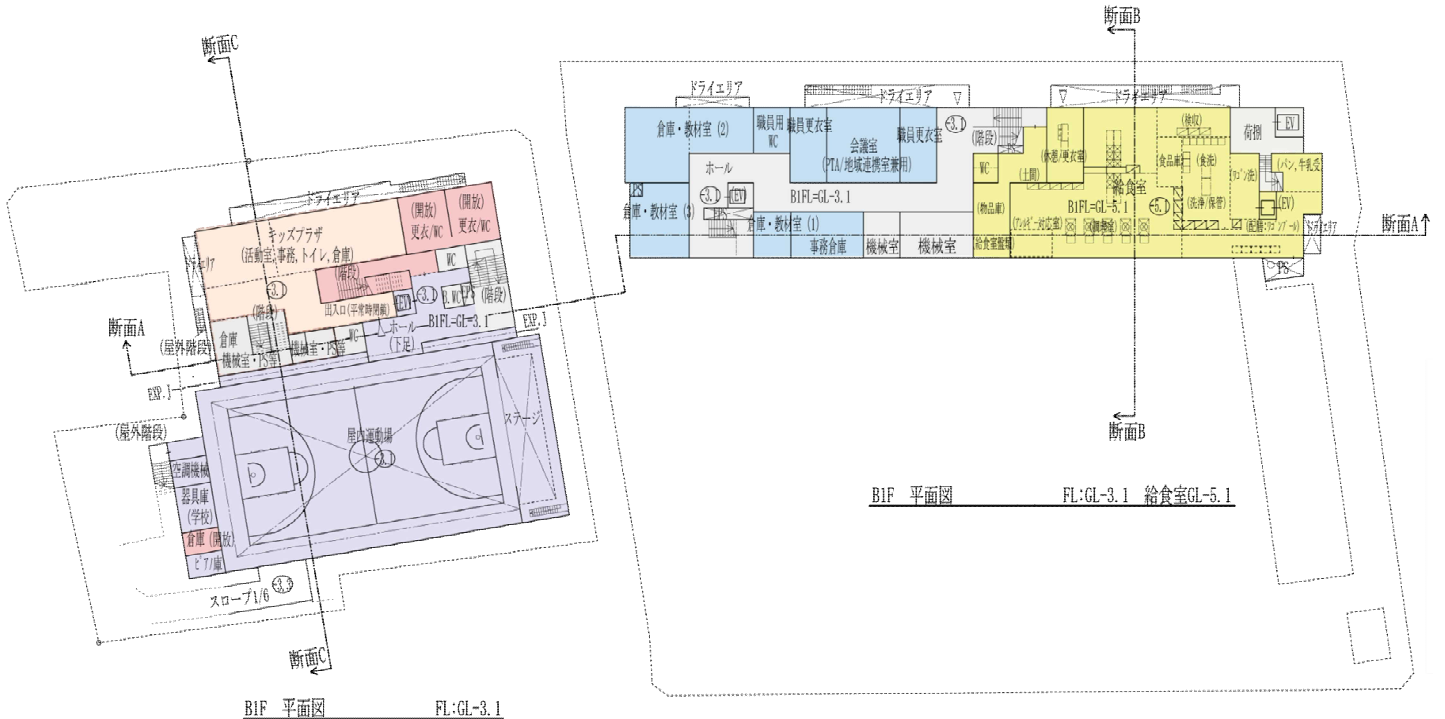
2ページ目は、想定される児童数と学級数の推移である。新校舎は18教室を予定しており、一定程度余裕を持たせている。4ページ、5ページは周辺現況写真である。東西敷地間の道路の写真があるが、この道路上に多くの電線が走っており、渡り廊下設置の課題となっている。また、東敷地の南西角と南東角の写真のとおり、敷地と道路に高低差があり、この擁壁部分の工事も難易度が高く工事期間の延長に繋がっている。6ページ目は建築条件等である。全敷地面積は約8,000㎡で、西側約2,500㎡、東側約5,700㎡、用途地域は第一種低層住居専用地域で、高さが10メートルに制限されているが、新校舎はキッズ・プラザ等の設置により現校舎より面積が大きくなるため地下化を予定している。10ページ目は、諸室一覧である。普通教室のほか、特別教室、管理諸室、給食室、共用部分、運動施設、キッズ・プラザ等がある。17ページ目からは、各居室の配置図であり、資料2-3として拡大したものを配付している。

■資料2-3（基本計画配置図、平面図）を説明



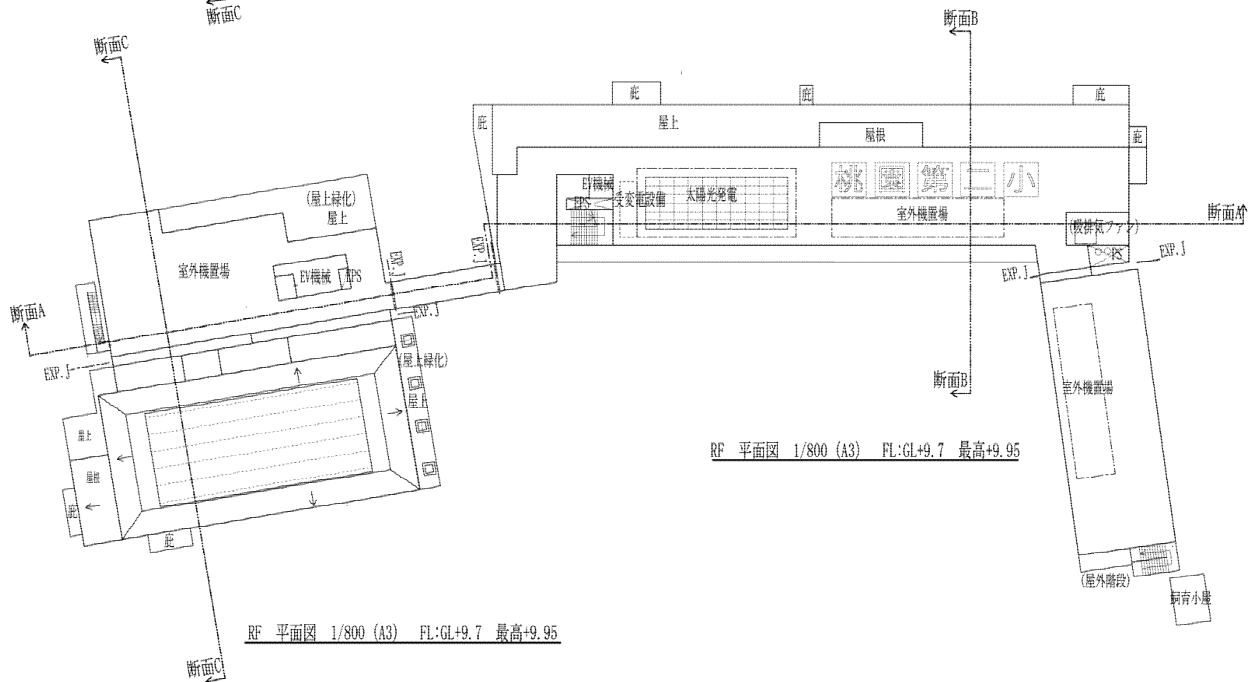
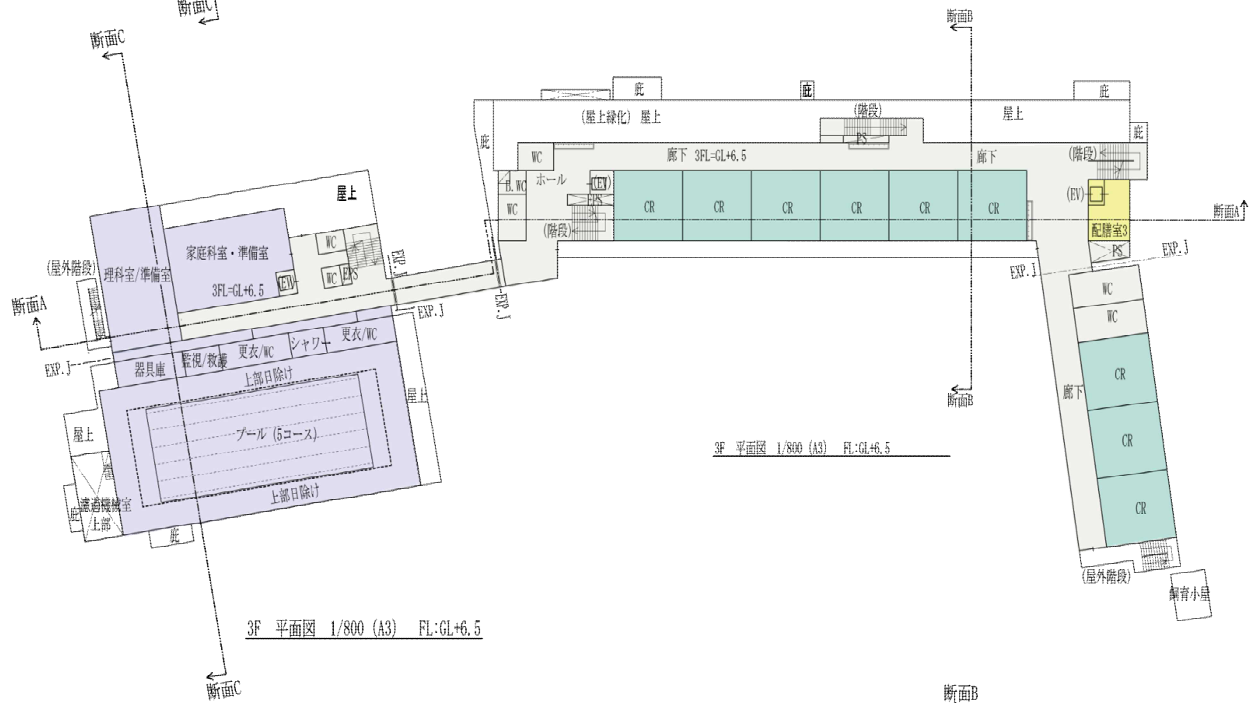
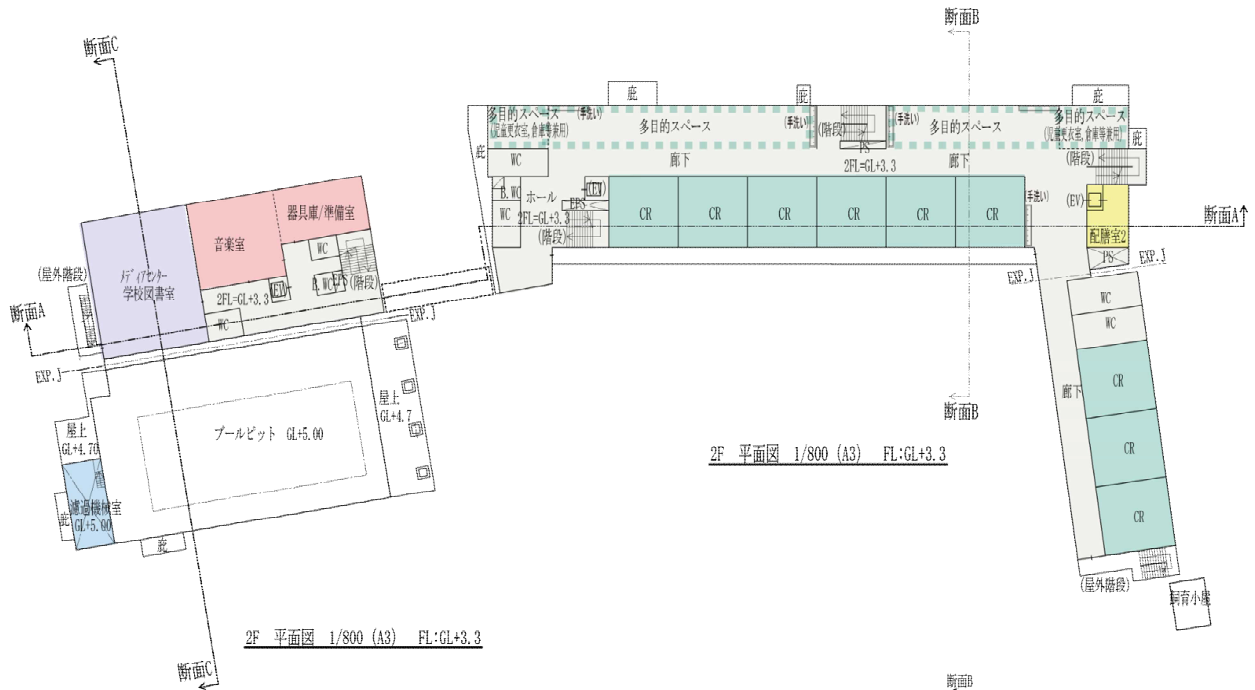
配置図及び1F平面図 1/800 (A3) FL:GL+0.1

配置図及び1F平面図 1/800 (A3) FL:GL+0.1



B1F平面図 FL:GL-3.1

B1F平面図 FL:GL-3.1 給食室GL-5.1



※資料の内容は令和5年5月18日時点のものである。

子ども教育施設課長

配置等については今後様々なご意見をいただき、基本設計に反映していく。24ページ目は今後の留意事項である。電柱・電線移設については東京電力や関連会社との協議、調整を進めていく。基本構想・基本計画（案）の報告は以上である。

委員長

今の説明について、質問・意見等はあるか。

委員

キッズ・プラザについて、子どもたちの活動室は地下に配置されるのか。

子ども教育施設課長

キッズ・プラザについては、まだ検討中である。子どもたちが長くいる場所はできるだけ地上に配置したいと考えており、そこは設計の中で検討していく。

委員

ぜひ検討してほしい。桃園第二小学校学区には主に、にじいろなかの学童クラブと文園児童館内の学童クラブと2つの学童クラブがあるが、利用人数が増えている傾向がある。今の2つの学童クラブの合計面積と比較し、面積は広いのか。

子ども教育施設課長

率直に言って足りない。面積確保がかなり厳しく、通常のキッズ・プラザの面積よりも少ないので、そこが懸案である。文園児童館を残したら良いとの意見もある。多目的室に配置を予定している地域開放型学校図書館を、区としてつくらないとなれば、ここがキッズ・プラザや他教室になる可能性もあるが、今の段階ではまだ方針が確定していないので、このような配置としている。

委員

利用人数は増えると思うので、これでは足りないという前提で検討して欲しい。また、できれば活動場所は地上階に持ってきていただきたい。また、給食室が地下になる場合は工期が延びる可能性があるという記載があるが、4年間の新築工事から更に延びる可能性があるのか。

子ども教育施設課長

新校舎は、キッズ・プラザ等が入るのに加え、現校舎に比べ柱や壁が太くなることから8,000㎡という大きさが必要になる。そうすると、地上3階では収まらないので地下に入れるが、地下工事は、いろいろ不確定要素があり、例えば、道が狭い中、掘り起こした土をどうやって搬出するのかや、建物をどう入れるのか等を、設計の中で計画していくので、そこでまた延びる可能性はある。

委員

今、記載されているのは、地下への配置を前提に考えた工期だが、掘った後、このスケジュールより延伸する可能性があるということか。

子ども教育施設課長

おっしゃるとおり。地下に給食室を入れたのは、できるだけ子どもたちの部屋は1階以上とするためである。

委員長

キッズ・プラザは、区の外校のキッズ・プラザの何割ぐらいか。

子ども教育施設課長

通常600㎡だが、これは320㎡ぐらいなので、半分程度しか予定できていない。

委員長

今年の学童クラブも1年生がいっぱいで、来年の1年生が学童クラブを希望した場合、今年の1年生が継続して入れないという状況であり、とてもキッズ・プラザの中に学童クラブを入れるスペースはないので、よく考えていただきたい。

委員

西側敷地が埋蔵文化財包蔵地に該当とあるが、もし何か発掘された場合、工事ができない期間や、東側だけでも工事を進めるのかなど、見通しはあるか。

子ども教育施設課長

区で、一定程度の建物を建設する際に、埋蔵文化財の調査をしなければならない地域として指定されているが、この辺りで遺跡などが出てきたということはあまり聞いてない。万が一出た場合は工期が延びる可能性は十分ある。工事の進め方については未定である。

委員長

区民活動センター建て替えのために調査を行ったところ、土器は出てきたが、文化的な価値のあるものはなく、そのまま埋め戻された。中央線に沿って昔、川があったが、より川に近かった区民活動センターであまり出なかったのも、それより高台にある校舎敷地からは出ないのではないかと思うが分からない。

副委員長

質問だが、これまでの学校の改築では、最大何年間ぐらい代替校舎で過ごしていたのか。

子ども教育施設課長

改築にあたっての代替校舎の利用というのは、来年度移転する中野本郷小学校が初めてなので、これまではない。

副委員長

他の自治体との比較などはあるか。

子ども教育施設課長

他自治体の学校では事例があるが、期間はわからない。

副委員長

児童が代替校舎で過ごすことについて懸念がある。1年生が4年生まで代替校舎で過ごし、更に延びるとなると卒業までということにもなりかねない。代替校舎の利用期間はできるだけ短くして欲しい。

子ども教育施設課長

改築にあたって色々な課題はあるが、これ以上延びることがないように検討したい。なお、自治体によって改築方法は様々で、他区では、棟別に改築し、代替校舎を用いない事例もある。ただ、そうすると抜本的な校舎の改築ができず、また、常に工事をしていることになる。

委員長

代替校舎となる旧第九中学校にはプールがないので、他の学校にプールを借りに行かなければいけないという問題もある。

委員

新校舎等の整備スケジュールは「想定」となっているが、確定するのはいつ頃か。また、「中野区立小中学校施設整備計画（改定版）」の整備スケジュールが書かれているが、その策定年月日はいつか。

子ども教育施設課長

「想定」がとれるのは、設計が終わる2025年度末頃の予定である。「中野区立小中学校施設整備計画（改定版）」は、令和3年10月に策定した。

委員

資料2-1は「基本構想・基本計画（案）」となっているが、いつ「案」がとれるのか。

子ども教育施設課長

この案で議会への報告をし、地域説明会で説明した後、9月頃にとれる予定である。

委員

道路上空通路の実現を切に希望しているが、設置するには関係部署との調整や承認が必要で、不可能な場合はほかの方法も考えなければいけないとある。何が一番問題なのか。

子ども教育施設課長

一番の課題は、電線である。電柱とそれに付随する電線が道路上空通路を阻害する形で南北に走っており、これが一番の障害となる。回避する方法として、電線を移設するか、地中化するのだが、地中化するには道路脇にボックスの設置が必要となることもあり、道路も学校敷地面積も狭いので難しい。また、電線を道路上空通路の上側に出すのも、高さ制限などの条件から難しい。この件は、区の施設課や東京電力と調整をしているところである。

委員長

子どもたちが地下の通路を通ることに対してはどうか。

委員

電線が上で子どもが下というイメージ自体あまり良くないので、何とか子どもたちが道路上空通路を通れるようにして欲しい。数年前におやじの会の人たちに、雨の日に通れるだけでも大分違うからと、道にテントを張っていただいたことがあったが、テントだと風が吹くと飛んでしまう。新校舎で道路上空通路を通れるようになれば、子どもたちの安全を守ることができる。新しい校舎は今後100年間は利用することになると思うので、この点は頑張りたい。もし、上が通せないのであれば、アーケードのような屋根をつけて通るなども考えなければいけないかとも思うが、まずは上空を通すことを考えて欲しい。

委員長

推進委員会としても、道路上空通路の設置を依頼していくこととし、電線が迂回できないのであれば、電線の地中化ということも求めていきたい。

委員

このスケジュールは早まることはないのか。

子ども教育施設課長

早めることは厳しい。

委員

子どもが代替校舎で入学し、そこで卒業しそうなので、プールの件が気になっているが、他のプールを借りるなど検討を始めているのか。

子ども教育施設課長

代替校舎として整備する旧第九中学校は、桃園第二小学校の後に児童数が多い桃花小学校が入る予定なので、プール部分に特別教室を配置するという案になり、プールの整備ができない。施設とは別の話になるが、例えば民間施設や他校のプールの利用を担当所管で検討することとなっている。他区では、1つのプールを共有するというのもしている。

委員

代替校舎に行った際に、子どもたちがどう行動しなければならないのかが、心配である。

委員

改築中の避難所の指定はどうなるのか。

子ども教育施設課長

防災危機管理課に確認したところ、改築中の避難所は近隣の学校に設置することになっており、現時点では大妻中野中学・高等学校と明治大学付属中野中学・高等学校を想定しているとのことである。

委員

機能的に収容人数などの問題が出ると思うが、あくまでも一時的なものという認識なので、どこに行くかは、はっきりして欲しい。

子ども教育施設課長

そういったアナウンスも早くできるよう、所管と連携したい。

委員

質問だが、東西敷地間の道路をなくすことはできないのか。

子ども教育施設課長

それについては検討したこともあったが、ここの道路をなくす場合、代わりに近隣の道路を拡

幅する必要があると聞いている。例えば東側の道路を拡幅するにも、既に大きなマンションが建っており、立ち退いてもらうのは難しいということで、このような計画になっている。

委員

今後、材料費などの値上りもあると思うが、費用の面で遅れが出ることはないのか。

子ども教育施設課長

おっしゃるとおり、建材はかなり値上がりしており、中野中学校を建てた時に比べ、平米単価は倍ぐらいになっているということだが、それで計画が遅れるということは現時点では想定していない。

委員

谷戸小学校が体育館を建て替えたときに、体育館か運動場を借りに来ていたと思うので、そういうやり方でプールも使えたらと思っている。

子ども教育施設課長

区としても近隣の学校のプールを借りに行くということは想定している。例えば桃花小学校の子どもたちが桃丘小学校に来て、体育をやっていたこともある。検討段階だが、プールの場合、夏は時期が重なるので、温水プールなど時期をずらしてできるところに行けないかなど案を出しているところである。

委員

今在校している児童の多くが代替校舎に通うことになるので、9月の保護者説明会では代替校舎についての質問が多く出ると思う。その時には代替校舎の見取図のようなものがないと説明が厳しいと思うが、用意できそうか。

子ども教育施設課長

議会で1月に報告しているものがあるので用意できる。代替校舎も、小学校の仕様にしたたり、木造の4階部分を不燃化したりするなどの改修をする。

委員

この改築推進委員会では、代替校舎の説明はないのか。それについても報告してほしい。

子ども教育施設課長

進捗は報告したが、図面は報告していなかった。今後、皆さんに郵送や説明をしたい。

委員

代替校舎の工事は計画どおり進む予定か。

子ども教育施設課長

そのとおり。

委員

9月の保護者説明会時には、代替校舎の工期等についても併せて提示があった方が良い。

子ども教育施設課長

了解した。

委員

代替校舎はそれだけの改築をするとなると、より快適な施設になるのか。

子ども教育施設課長

経費の半分ぐらいが耐震補強にかかるが、それと同じぐらい改修経費がかかる。躯体だけは元のまま、内装は全てスケルトンにし、空調施設も新調する。プレハブも検討したが、工費がほとんど変わらなかった。耐震補強のため建物に斜めのブレースが入ってしまうが、プレハブと比較すると環境は良く、スーパーリフォームのようなイメージである。

委員

代替校舎では、体育館は確保されるのか。

子ども教育施設課長

体育館はある。

委員

道路上空通路について、東京電力と交渉しているということだが、そこに通っている電線は、どのぐらいの規模で、何世帯ぐらいに送っている線なのか。

子ども教育施設課長

当課が直接交渉している訳ではなく、施設課が交渉しているので、申し訳ないが今はわからない。

委員

電線を迂回できる可能性があるかも分からないのか。

子ども教育施設課長

それは東京電力側の提案を待っているところである。ただ、区からここに道路上空通路を設置したいと聞いたところ、東京電力が提案してきたのがその3案である。

委員

明治大学付属中野中学・高等学校に渡り廊下があるが、建て替えの時、近隣の住民から、渡り廊下はつくらなくて欲しいという反対意見が出たこともあった。

委員長

旧第九中学校の改修経費に関しては、議会は通っているのか。

子ども教育施設課長

通っている。

委員長

そこまでの改修をするのであれば、2つの学校の代替校舎として使用した後、更に改修して谷戸小学校を移したらどうかと考えている人もいる。または、解体して新しい谷戸小学校をつくるという考え方の人もいると聞く。谷戸小学校の地域の方々も含めて考えると、また計画が遅れてしまうが、納税している立場からすると、税金を有効に使って欲しいと思う。

委員

代替校舎にもキッズプラザや学童クラブはあるのか。

子ども教育施設課長

そこはまだ担当所管で検討中である。

委員

代替校舎について詳細が分からず、非常に不安である。

子ども教育施設課長

現在の旧第九中学校の校舎そのままだが、おそらく桃園第二小学校の子どもたちが行くと広く感じると思う。児童数が多い桃花小学校の代替校舎にもするので、桃園第二小学校の子どもの数に対しては教室も多く、広めになる。次は資料を用意するようにしたい。

委員長

新校舎のキッズ・プラザは標準と比較し半分ぐらいの面積であり、文園児童館の方針も決まっておらず、中途半端な状態である。学校ではなく文園児童館にキッズ・プラザを入れて、学校の西側施設をゆとりのあるものにしても良いかもしれない。災害時にはトリアージの場所などとしても使えるスペースがあったほうがいいのではないかなとも思う。キッズ・プラザ等については、PTAを中心に一緒に検討したいがどうか。

委員

ぜひ検討したい。どのような活動が考えられるか。

委員長

例えば、学童クラブの需要予測などのデータを集め、それを元に検討し、文園児童館のあとはキッズ・プラザを中心とした施設にして欲しいといったことや、新校舎のキッズ・プラザはもっとゆとりのあるものにしてほしいなど、推進委員会としての方向性が出せるのではないかな。保護者の要望を集めるのはPTAしかできないと思う。

委員

区も、そういった状況は把握しているのではないかな。

委員長

キッズ・プラザについては、教育委員会ではなく、区の子ども教育部だろう。

子ども教育施設課長

そのとおり。ただ、連携はしており、問題としては認識している。

委員長

文園児童館が今後どうなるかまだはっきりしないのであれば、そこが子どものスペースになるよう地域として声を出して方向性を持っていけたらいいのではないかと個人的に思っている。

委員

子どもたちのためになることであり、ありがたい。もちろん一緒にやっていっていただきたい。

委員長

新校舎は、教室数が足りなくなるようなことがないよう、ゆとりのある施設にして欲しい。面積が狭いのであれば、やはり文園児童館を活用したほうがいいのではないかと思う。

子ども教育施設課長

担当部署も十分認識しており、新校舎のキッズ・プラザの面積も検討中である。今後、設計の際には、担当部署と教育委員会とで、キッズ・プラザや教室の配置をどうするかといった具体的な調整をすることになるだろう。また基本構想・基本計画（案）を議会に報告したら、プールはちゃんとしてほしい、居場所を確保してほしい、キッズ・プラザはこの面積では足りない、といった意見も出るかと思うので、それを受けて基本設計の中で検討する。

委員

基本設計はいつまでに決めるのか。

子ども教育施設課長

基本設計・実施設計として、令和5年度中頃から令和7年度までを予定しているが、この前半部分で基本設計を固めていく。

委員長

要望を出すのは、なるべく早めのほうが良いだろう。

委員

スケジュール上、令和5年度中頃から基本設計となっているが、業者選定は終わったのか。

子ども教育施設課長

まだである。秋頃に「基本構想・基本計画（案）」の案が取れた後に業者選定となる。

委員長

本日予定していた議題は以上である。次回開催日は未定とのことだが、見込みはあるか。

子ども教育施設課長

基本設計の進み具合にもよるが、ある程度、成果物が形になってからになるので、しばらく後になるだろう。意見等あれば、推進委員会でなくても言っていただきたい。

委員長

次回開催日は、決まり次第事務局から通知する。本日の推進委員会はこれをもって終了する。